

他人の速度

杉本茜

彼が言う麒麟がどちらかわからないその麒麟にうろこはありますか

もう五時か、と言いつけて片付ける言葉や肉を犠牲にしながら

緩急をつけてと言われわたしから躍り出る速い蛇おそい蛇

静かなことと無口なことの境目に横たわる彼女のふくらはぎ

夏の砌、惜しむこと、なんて、なかった 涼しくなってグラス割れ始める

竹林のような速度でころがって失意って心地いいねはやくて

睡眠に侵されているあなたからゆるゆる流れだすすなざばく

ものさしを買いに行かせて夕焼けは 無限に、ゆっくり ゆっくり おちる

こみ上げるものが多くてわからない嘔吐なのか鼓笛隊なのか

だれもかも他人でいてよ折り紙が床を滑空し続けている

(2019年、三ツ沢歌会ネットプリント第一号『三ツ沢南町』掲載作)